

い か 釣 試 験

1. 期 間 自1959年9月7日 至1959年9月9日

2. 使用船舶 大島丸 50噸 60坪

3. 調査員 当 外 3人

4. 調査海域

港川沖合から久高島沖(15~20坪) 別紙漁場図参照

5. 調査行程

9月7日15時40分泊港発 20時30分港川沖合泊岸到着、翌朝定漁量試験と実施

9月8日、久高島沖合に逃場移動して定漁試験実施

9月9日、夜明けと共に昼前打戻り帰港につく同日11時35分泊港発した。

6. 試験概況

今回は釣具の改良に重点を置き、改良擬餌の漁獲を試験してみた其の結果は次の通りである。

(1) 鯉科、かじきの鼻、夜光貝及夜光ペイント付製擬餌は其れ其れ餌付状況に於て大した変化は認められず何れも量×漁獲はされるが余り期待は掛けられない様に思われた。

(2) イカ擬餌内(ビニール製)

該擬餌は曳網釣用を利用して試作したもので曳網釣に於いては鯉、鯉、等が釣獲され特に鯉には相×適した擬餌と思われるのであらかこれを「いかに」釣りに利用したのは「いかに」が支脚を穿む性質を有している為であったが、今回の試験では餌付状況は全然認められず「いかに」釣具としては不適と思つた。

(3) サン型(ビニール製)

喰付く事は確認したが釣獲が出来なかつた。此等は結局後部の針が余り小さかつた為引離れが起かつたものと思われ針の部分を変更すれば感度度の漁獲は出来るものと推量される。

7. 漁獲物の処理

9月7日、10匹、9月8日、15匹計25匹の漁獲物があつたが此等は当所製造部に確認試験を実施せしめた。

8. 気象海況

月日	時刻	天気	雲量	風位	風力	波浪	潮り	水色	気温	水温	比重	位置
9月8日	0	00	5	18	2	2	2	4	24.0	22.2	2.001	K25° - 54' E126° - 10'
05月8日	13	00	5	18	2	2	2	5	24.0	22.4	2.001	正 港 外

9. 所 感

今回の試作擬餌は試験の結果余り効果か上からなかつたが喰付く事は確認したので今後各種擬餌の利点、欠点を考慮に入れ「いかに」に適する様な擬餌の研究をなすと共に操作法も再見出さる必要性を感じた。